

## 熊本県立熊本かがやきの森支援学校 令和7年度(2025年度)学校評価表

<b>1 学校教育目標</b>
健やかで意欲的に学び、人との関わりを楽しみながら自分らしく生きる児童生徒を育成する

<b>2 本年度の重点目標</b>
<p>○安全・安心な教育環境を保持する。</p> <p>○児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実を図る。</p> <p>○近隣校や地域の方との交流及び共同学習の更なる充実を図る。</p> <p>○人と関わりながら自分らしく生きるための地域生活支援及び進路指導を推進する。</p> <p>○地域におけるセンター的機能の充実に努める。</p> <p>○職員一人一人が力を発揮しやすい風通しの良い職場環境を推進する。</p>

<b>3 自己評価総括表</b>						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	肢体不自由特別支援学校としての職員の専門性の担保。	職員の専門性向上	校内外の研修を通して職員の専門性向上に取り組む。	・校内外の研修や外部専門家講師招聘研修に学校全体で取り組む。その他にもミニ研修や校外研修の復講の機会を設けたり、学びを通信や報告書として共有したりすることで、効果的に学びが深まるよう取り組む。	A	・全体研修、学部研修、グループ研修等の選択研修等、様々な研修の形態を準備し、さらに外部専門家招聘研修も加え、学校または各職員の課題解決、またはスキルアップのために、各自のニーズに合わせた研修を進めることができた。研修の復講に関しては、夕会を有効活用し、短時間でも効果的に復講できるよう工夫した。
	業務改革及び働き方改革の推進。	職員の負担感軽減	職員の校務能率の向上とワーク・ライフ・バランスの推進を図る。	・時差出勤、定時退勤日等を導入することで、多様な勤務形態の選択を可能とし、業務改革と職員の余暇活動の充実及び心身の健康を保持しつつ、業務改革を行う。	B	・定時退勤日は設定しなかったが、時差出勤は7月から開始した。毎月およそ20名程度の職員が取得し、夏季休業中は普段より6名ほど多い24名程度が取得した。職員からは、生活に余裕ができたり、退勤後の時間の使い方が充実したりと、自分や家族のライフスタイルに合わせて勤務できたとの声が挙がっている。
	危機管理体制を整備する。	危機管理意識の向上	ヒヤリハット事例の共有や緊急時対応シミュレーションを実施し、職員一人一人の危機管理意識を高める。	・各学部で報告される毎日のヒヤリハット事例を月毎に集約し、分析を行い全職員に周知して事故未然防止への意識を高める。 ・各学部で緊急時を想定したシミュレーションを年間2回以上実施する。	B	・ヒヤリハット事例を集約し、毎月分析を行い職員へゆうnetと夕会において周知を行った。学部によって事例報告件数に差があることや、個々の危機意識に差があることから、今一度取り組みの趣旨の確認と事例報告のルールなどを確認した。 ・各学部において、対象児童生徒と危険な場面を想定して訓練を行うことができた。本校の特性を踏まえて、2回の内1回は医療的ケアのある児童生徒を対象とし、看護師との合同シミュレーションを行うことができた。

	防災体制の充実を図る。	保護者や地域と連携した防災体制の構築	<p>学校防災マニュアルを元にした研修や訓練を行い、職員間での理解を深め、実践的技能を高める。</p> <p>福祉子ども避難所について熊本市との連携体制を強化していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期に1回、危機管理委員会を実施し、本校の防災教育、防災管理、防災体制、各訓練等、福祉子ども避難所の対応等について協議し、充実を図る。</li> <li>・防災研修や災害時を想定した引き渡し訓練などを通して、職員の実践力と防災への意識を高める。</li> <li>・熊本市の福祉子ども避難所マニュアルをベースに本校の避難所運営について協議し、連携の在り方を確認していく。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理委員会を毎学期実施することができた。本年度行った防災に関する各訓練や研修等について反省を下に意見交換を行い、改善点や次年度への志向を検討することができた。マニュアルについては、地震が起きた際の対応をより本校の実態にあった流れに改善することができた。</li> <li>・4月と8月に集中して防災に関する研修を行った。本校の防災設備や、マニュアルを通じた災害時の対応の確認、備蓄品の確認などを全職員で行った。また本年度は、引き渡し訓練について実践的な形式になるよう検討改善を行い、職員の防災への意識の向上につながった。</li> <li>・熊本市と継続して連絡を取りつつ、夏期休業中に、他校の福祉子ども避難所開設訓練の見学を行うことができた。それを受けて、福祉子ども避難所に関する本校のマニュアルをより現実的な動きができる流れに改善することができた。</li> </ul>
	本校の特色やよさを広く発信する。	積極的な情報発信	ホームページ等で本校の取組や行事、学習の様子を情報発信する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページ更新の年間計画を基に、各学部の学習の様子を2ヶ月に1回、学校行事を随時ホームページに掲載、更新する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間計画に沿って、教科や生活単元学習、自立活動など、学部の様子を偏りなく紹介することができた。学習の様子や画像等、個人情報取り扱いに注意しながら取り組むことができた。</li> </ul>
	適切な教育課程を編成する。	教育課程の見直し・改善	学部や学年の系統性や発展性のある教育課程を編成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程検討委員会を開催し、各学部の現状と課題を整理する。教務部担当者を中心に、系統性のある教育課程になるよう、調整・見直しを行う。また、教育カレンダーを作成し、適切な計画、指導ができるよう管理する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度の教育課程編成に向けて、教育カレンダーを導入し、より具体的な年間指導計画を立てられるように工夫した。教育カレンダー作成の中で、学部間での共通理解を図ることができた。また、教科・領域間のバランスやスケジュールを考えた年間指導計画を立てることができた。</li> <li>・教育課程検討委員会の中で、各課程決定の基準について意見交換をすることができた。子ども達が適切な学習内容を学ぶことができるよう、今後も継続した議論が必要である。</li> </ul>
授業の充実	よりよい授業を追求する。	授業研究、専門性向上研修による授業改善	<p>校内授業研究の充実と研究授業の質的向上を目指す。</p> <p>継続的に授業改善に生</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通じて全担任が1事例の研究授業を実施し、各グループで授業検討会に取り組む。</li> <li>・研究授業に向けて月に2回事例検討</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例検討に向けた授業動画の撮影・評価を継続したことで、児童生徒の変容を捉え、それを基に教材や指導方法を工夫・改善できたという成果が多く報告された。一方で実践を重ねる中で新たな課</li> </ul>

			<p>かすことができる研修体制を構築する。</p>	<p>会を実施し、日々の授業実践についてグループで検討を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業改善」をテーマとした校内研修を計画的に実施し、毎回アンケートを集計し、年度末に分析、次年度計画へと反映する。</li> <li>・授業作りシートを活用し、「研修→授業改善→児童生徒の変容・成果」までを記録し、成果の見える化を図る。</li> </ul>		<p>題や悩みも明確となり、次年度に向けては指導内容や教材の工夫、実態把握の視点に関する専門性をさらに高め、より質の高い授業を追求していく必要性が感じられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の視点から実践を検証することで、授業を多角的に捉え直すことができ、改善の方向性がより明確になったとの評価が多く得られた。目標の実現に向けて、様々な切り口から授業を見つめ直すことの重要性を教職員間で共有できた点は大きな成果である。</li> <li>・指導に直結する研修の成果を授業改善に生かすことができた。次年度も研修を精選し、さらなる授業の質向上を目指す。</li> <li>・継続的な記録の蓄積により、児童生徒の変容を可視化し、指導改善へとつなげることができた。次年度もその有効性を共有し、記録に基づく授業改善を実施していく。</li> </ul>
キャリア教育 (進路指導)	児童生徒一人一人に対する進路指導の充実を図る。	個に応じた進路指導及び情報提供	<p>児童生徒一人一人のニーズを把握し、適切な進路指導や情報提供を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者との面談や進路アンケートを通して、一人一人の進路希望や関係機関を把握するとともに、他機関と連携しながら取組を進める。</li> <li>・学校全体でキャリア教育の取組を意識できるよう、本校で作成しているキャリア発達段階表について職員全体で共有する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路アンケートや面談で保護者の進路に関する希望や考えを把握することができた。また、事業所や相談支援専門員と連絡を密に取りながら進路決定に繋げることができた。</li> <li>・キャリア発達段階表について職員全体で共有することで、段階的な取組を意識することができた。次年度も、全体周知を行い、学校全体でのキャリア教育の取組に繋がりたい。</li> </ul>
生徒 (生活)指導	よりよい交流及び共同学習を推進する。	交流及び共同学習の更なる充実	<p>交流相手と本校の児童生徒がふれ合い、お互いに楽しむことができるような活動を設定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施計画等について、交流相手校や地域交流相手の担当者との打ち合わせを丁寧に行う。</li> <li>・児童生徒の実態を関係職員間で共通理解し、活動内容や参加方法を工夫する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校間交流では、自己紹介やお互いに楽しめるようなゲーム、相手校の文化祭に参加して一緒に演奏するなど、本校児童・生徒の実態に合わせた内容で楽しく活動することができた。地域の方との交流では、昨年以上にふれあう時間を設け、楽しい雰囲気での交流することができた。</li> </ul>

人権教育の推進	教職員の人権意識の向上を図る。	人権意識の向上	人権の重要課題について幅広い知識を身につけ、職員自身が人権感覚を磨くことで、人権を尊重した指導・支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員アンケートを行い、ニーズに応じた校内研修を年3回以上行う。</li> <li>・校外研修へ積極的に参加をし、研修で得た情報を共有できるような場面を設け、職員全体で情報を共有する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季休業中にそれぞれが学びたいテーマに沿ってグループ別研修を実施し人権意識を高めることができた。また、第3回全体研修では、全てのグループ別研修の内容を、全職員で共有し、学びを深めることができた。課題別研修等の復講も職員夕会の中で定期的実施し、全職員で共有することができた。</li> </ul>
	命を大切にすることを育む指導の充実を図る。	児童生徒の自尊心の育成と生活経験の拡大	児童生徒が、自分も友達も大切な存在であることに気づき、お互いを大切にすることを意識した関わりができるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒一人一人の実態把握を行い、学部毎に児童生徒の実態に応じた日常的な指導を行う。</li> <li>・学校生活の中で、様々な人と関わる機会を作る。</li> <li>・12月「人権週間」を中心に、人権をテーマとした学習を行う。</li> <li>・友達とつながる喜びやお互いを認め合う態度を育てる取組を行う。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部毎に人権学習に取り組み、児童生徒の実態に応じて、自分のことや友達のことを考えることができた。普段関わるのが少ない他学年の友達と関わる場面も設定したことで、緊張しながらも相手をしっかり意識する姿も見られ、お互いの存在を意識することができた。</li> </ul>
いじめの防止等	いじめ問題に対し迅速かつ丁寧に取り組む。	いじめ未然防止及び早期発見	いじめはどんな理由があっても許されないという認識に立って、すべての児童生徒が安心して学校生活を送ることができるような教育環境をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ防止等対策委員会を中心に、保護者や外部専門家と連携し、日常的に児童生徒の様子を観察しながら、いじめの未然防止と早期発見の取組を実施する。</li> <li>・いじめ事案等の対応についての職員研修を年1回実施する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「こころのきずなを深める月間」の取組や交流及び共同学習、各教科等での取組を通して、児童生徒に応じたコミュニケーションの力を高め、様々な友達と関わる経験を積み重ねることができた。</li> <li>・各学期に1回、いじめ防止等対策委員会を実施した。授業見学や各学部の取組の報告を通して、外部専門家に助言をいただき、日々の教育活動の充実に活かすことができた。</li> <li>・夏季休業日にいじめ防止研修を行い、いじめ事案の初期対応について職員へ周知することができた。</li> </ul>
地域支援	教育相談の充実を図る。	関係機関との連携による地域支援	熊本市及び県北の幼・保・小・中・高の肢体不自由児生徒に関する相談や支援エリアの高等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談を受ける際には、ニーズを的確に把握し、必要に応じて関係機関と連携しながら教育相談を実施する。</li> <li>・県内全地域の重度重複障がい児童生</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて関係機関と連携を取りながら、ニーズに応じた教育相談を実施することができた。</li> <li>・県内他校の特別支援教育コーディネーターと情報交換しながら県内全地域の重度重複障がい児童生徒の把握</li> </ul>

			学校等の依頼に 応じて教育相談を実施する。	徒の把握に努め、必要に応じて教育相談を実施する。 ・担当エリアの高等学校等に積極的に働き掛け相談に応じる。		に努めた。 ・担当エリアの高等学校と連絡を取り合うことができた。必要に応じて担当エリアの高等学校や肢体不自由の生徒が在籍する高等学校への巡回相談を実施した。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	地域との連携体制の充実を図る。	地域と連携した学校の活性化	学校運営の改善並びに児童生徒の健全育成を図る。	・各学期1回の学校運営協議会を開催し、学校運営の説明や授業参観等を通じて、地域、教育、医療、福祉、家庭の各分野の視点に基づいた幅広い意見を集約する。	B	・児童生徒の様子や学校運営上の課題(特に防災面)を共有し、評議員の各職種及び立場上の助言や協力の申し出があり、子ども福祉避難所に関する協力体制が強化されたことで、保護者への研修や開設訓練、マニュアル作成等、これまでより一歩前進した。今後も続けていきたい。

#### 4 学校関係者評価

- ・みんなが笑顔で過ごすことができていることに感謝している。
- ・福祉子ども避難所の運営については障がい福祉課としてもまだ課題は多いが連携していきたい。施設はとてもきれいで環境も良く、充実している。ただ、近隣住民の方が押し寄せてきた際の対応についても検討していきたいと思っている。
- ・毎年、レベルアップしており、より高度な授業が行われている。気管切開している子がプール活動ができるのも、先生方の努力のたまものだと思う。
- ・子どもを中心にした社会作りを目指しているが、いつもこちらに来ると子どもを中心にして考えられて充実している。
- ・学校で学ぶことで、成長が見られる。学習の目標を立てられ、得意なことを伸ばす学習活動が行われている。運動会もとても盛り上がったと保護者からも話を聞いた。マスクを外したことは表情が見えてとても良いと思う。子どもたちは先生の顔をしっかり見ている。
- ・ICTの授業を学校で取り組んでいただくことで、なかなか自分から発信することが難しい子どもたちにとって、自分の気持ちを伝えたり、自分から発信をすることができたりするため、ぜひ今後も取組を広げてほしい。ICT活用に関しては、児童生徒の得意な動き、得意なことを生かして取り組まれている。これからは是非発展してほしい。以前よりも活用が具体的な動きになり増えている。保護者の方も、兄弟との遊びなど学校だけでなく家でもICTを使って家族とのコミュニケーションを図ることができ、余暇活動にも活用できている。
- ・地域の学校との交流に関しても是非続けてほしい。とても良い取組だと思う。また、居住地校交流も取り組んでいる学校もある。防災の面では、何かあったときに地域とつながっておくことが必要である。

#### 5 総合評価

##### ○安全・安心な学校づくり

- ・福祉子ども避難所について、障がい福祉課の皆様と協議を行うことで、今後の連携や役割を明確にしていったり、他校の避難所開設訓練の見学を行ったりして、本校の防災マニュアルの見直しと改善につながった。障がい福祉課には保護者向けの研修もしていただき、福祉子ども避難所や防災についての理解も深まった。次年度も引き続き連携させていただきながら進めていきたい。

##### ○児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実

- ・今年度は一人一事例研究授業を実施し、小グループに分かれ、事例検討を重ねて授業実践につなげ、複数の視点から実践の検証をしたことで、授業を多角的に捉え直し、改善の方向性がより明確になってきた。研修から授業改善、児童生徒の変容までを記録した授業作りシートを活用し、継続的な記録の蓄積によって取組と改善、変容等を「見える化」してよりよい授業改善充実につなげてきた。

##### ○近隣校や地域の方との交流及び共同学習

- ・小学部は城西小4年生とお互いの学校を訪問する直接交流を実施することができた。高等部は千原台高校との交流、中学部は花園公民館のマジックショーを実施して頂き、地域の方との交流ができた。分教室は田迎南小学校との直接交流もできた。松橋東支援学校とはオンライン交流も実現した。学習内容、場面で工夫することができ、交流を楽しみ雰囲気を実施することができた。本校の児童生徒の実態や様子を知っていただき、児童生徒の皆さんに、どんな交流が

良いか、どうやったら分かりやすく伝えられるか等を考えていただいたことは共生社会の実現に向けて大切な時間になったのではと感じた。次年度も引き続きよりよい交流を考えていきたい。

○職員の人権意識の向上

- ・児童生徒に人権教育を行う私たち教職員として磨くべき人権感覚、人権意識の向上のために、様々な校外の人権研修に参加したり、学びたいテーマ毎のグループ別研修において、フィールドワーク等の現地研修を行ったりした。(水俣病資料館、菊池恵風園、国際交流会館等) また、その学びを他の職員と共有し、職員一人一人が自分と重ねて学びを深めたり、人権感覚を高めたりできるよう、夕会の一部の時間を使って復講を定期的に行った。今後も、自分の課題と向き合い、必要な学びを選択して学びを深められるような研修の工夫を行っていきたい。

**6 次年度への課題・改善方策**

- 引き続き、安全・安心な教育環境を保持するために、確実な研修実施やヒヤリハット事例を全職員で確認しながら、職員一人一人の意識を高めていく。
- 自立活動の授業充実のためスーパーティーチャー等の講師招聘研修や事例検討をおこないながら、「授業づくりと授業改善」を更に進める。研修後に各職員が各自の授業に落とし込むため、水曜日をノー会議デーと設定し、各自の授業作りの時間にも活用できるようにする。
- ICT活用だけでなく、移動支援機器を導入・活用することで、児童生徒の可能性を伸ばし、主体性や自己決定力等を育み、児童生徒の学びを深めたり、広げたりできるよう、活用推進委員等を配置し学校全体で取り組んでいく。
- 児童生徒の実態に即した教育課程編制と課程分けについて再検討する。学校全体で系統性や系統性のある教育課程を学部間での見直しを図る。
- 福祉子ども避難所の運営について、さらに熊本市障がい福祉課と綿密な打合せを行うとともに、福祉課との合同開設訓練実施等の調整も進めていく。
- 職員一人一人が力を発揮できる職場環境づくりを進めるために、引き続き、時差出勤の取組と、それに伴う業務の偏りが出ないような業務計画・遂行の工夫等、業務のDX化を推進する。
- 特別支援教育コーディネーターが地域に出かけて巡回指導をしていることをあまり共有できておらず、校内支援だけではなく、特別支援のセンター的機能として行っていることの共有を図りたい。